



Deutsch-Japanische Juristenvereinigung e.V.
独 日 法 律 家 協 会
Institute of Comparative Law in Japan
中 央 大 学 日 本 比 較 法 研 究 所



シンポジウム 裁判員裁判に関する日独比較法の検討 2015年10月4日(日)10:00~17:40 中央大学駿河台記念館(東京・お茶の水)2階

我が国の裁判員裁判制度は、2009年に運用が開始されて以降、大きな制度的変更もなく、おおむね順調に進行してきました。とはいえ、対象事件の見直しや量刑、控訴審裁判所による事実誤認の審査のあり方など、少なからぬ問題点や課題も指摘されている今日です。このような状況を踏まえて、このたび、日本比較法研究所では、裁判員裁判制度を概観し、その意義・正当性を再確認しつつ、日本の裁判員裁判制度における重要論点について比較法的視点から分析と検証を加えるべく、日独の関係方面から専門家の出席を得て公開シンポジウムを開催し、意見交換を行います。

詳細・参加申込は日本比較法研究所のウェブサイトをご覧ください。

<プログラム(予定)>

開会式・基調報告: 10:00 ~ 11:00

開会の辞・来賓挨拶: 伊藤壽英(日本比較法研究所所長)・Dr. Jan Grotheer(DJJV 会長)

竹崎博允(前最高裁判所長官)・稲田伸夫(法務省事務次官)

基調報告: 比較法的に見た裁判員制度の特徴とその運用実態及び課題 椎橋隆幸(中央大学法科大学院)

セッション1: 11:00 ~ 12:40 刑事裁判への国民参加の意義およびその正当性

報告: 小木曾綾(中央大学法科大学院)・Prof. Dr. Arndt Sinn (オスナブリュック大学法学部)

コメント: 上富敏伸(法務省大臣官房)・Prof. Dr. Karsten Gaede(ブツェリウス ロースクール)

司会・コメント: 香川徹也(最高裁判所刑事局)

セッション2: 13:40 ~ 15:20 量刑問題

報告: 鈴木彰雄(中央大学法学部)・Dr. Marc Tully(ハンプルク高等裁判所)

コメント: 稗田雅洋(東京地方裁判所)・Dr. Jan Grotheer(DJJV 会長)

司会・コメント: 井田 良(慶應義塾大学法務研究科)

セッション3: 15:50 ~ 17:30 控訴裁判所による事実誤認の審査のあり方

報告: 柳川重規(中央大学法学部)・Prof. Dr. Henning Rosenau (アウグスブルク大学法学部)

コメント: 青柳 勤(東京高等裁判所)・Prof. Dr. Karsten Gaede(ブツェリウス ロースクール)

司会・コメント: 吉田安志(東京地方検察庁)

閉会式: 17:30~17:40 閉会の辞 只木 誠(中央大学法学部)



助成: 公益財団法人社会科学国際交流江草基金
日本比較法研究所研究基金
ロバート・ボッシュ財団

お問い合わせ: 日本比較法研究所事務局
192-0393 東京都八王子市東中野742-1 中央大学内

TEL: 042-674-3302 FAX: 042-674-3301

Mail: saibanin@tamacc.chuo-u.ac.jp

ウェブサイト:

http://www.chuo-u.ac.jp/research/institutes/comparative_law/